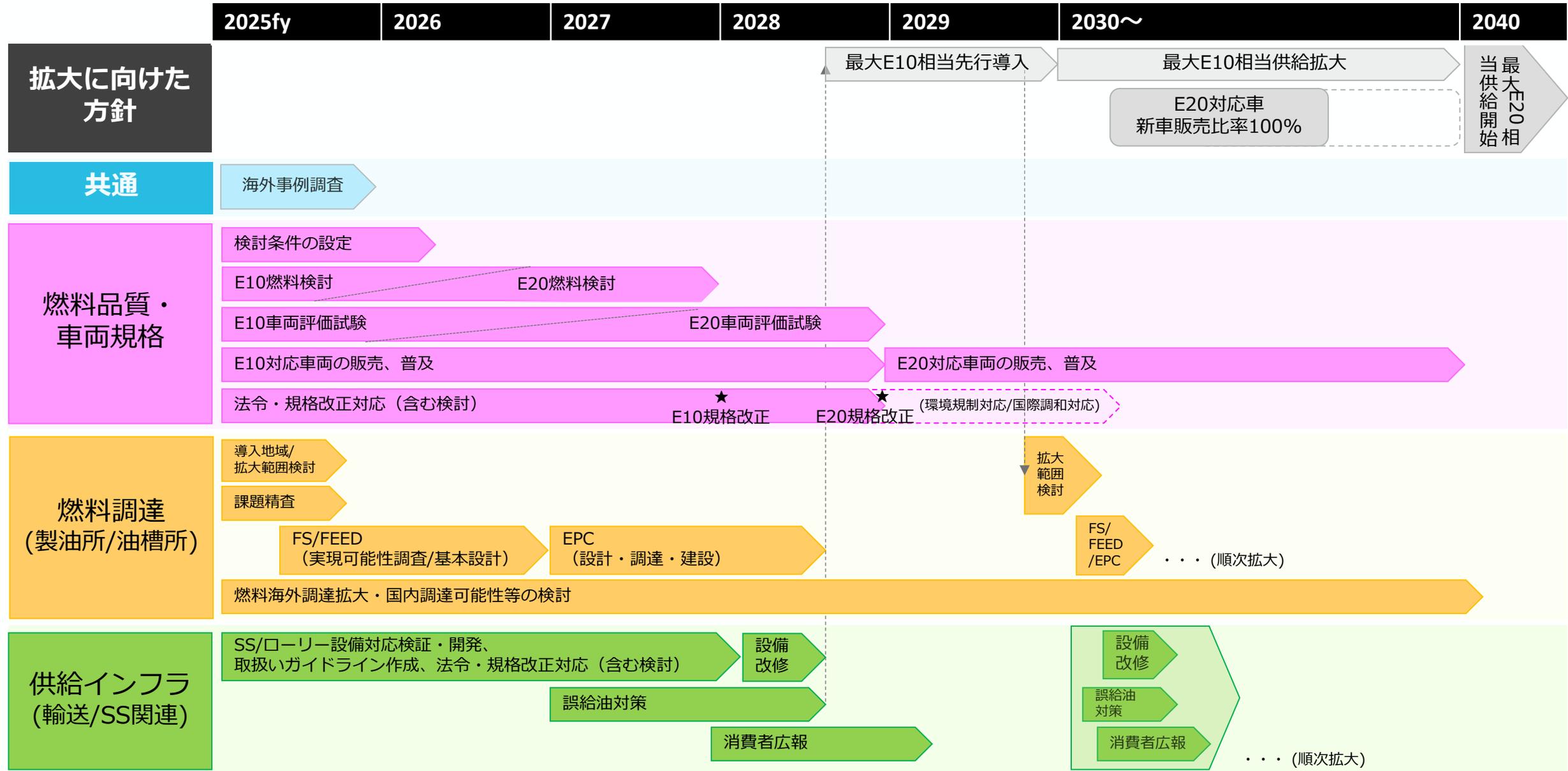


# ガソリンへのバイオエタノール導入拡大に向けたアクションプラン



※工程は取組状況に応じて前後する可能性あり。E20相当を見据えて予め対応を進める。海外実績等を踏まえ省力化できる部分は積極的に前倒し。政府としても導入支援を検討していく。  
 ※本アクションプランは、先行導入地域や導入量も含め、今後調査・検討を進める中で精緻化していく。課題を洗い出し、対応車両の普及状況も考慮した上で供給規模の早期拡大を目指す。

# ■ 燃料品質・車両規格

## 【取組1. 世界観の策定】

- ・シナリオの策定（E20までを前提）：E10、E20実装時の燃料の製造方法、ガソリン基材構成（生産量を仮定）、車両の置き換え、対応車/非対応車の台数、排ガス・燃費認証方法などを想定してシナリオを策定する

## 【取組2. 海外事例調査・先行事例の共有、活用調査】

- ・エタノール燃料を使用している他国の燃料品質、車両対応などに関する状況を調査（調査会社への委託、自動車会社から情報提供）

## 【取組3. 標準燃料の決定】

- ・E10:燃料規格の変更の必要有無を検討
- ・E20:燃料製造・車両影響の検討を基に、標準燃料を設定

## 【取組4. 車両の評価、燃料混合使用時の影響】

- ・E10（変更があった場合）および想定されるE20燃料を使用し、車両排気への影響、材料への影響、工バポへの影響、運転性（ドライバビリティ）への影響などを検討。必要があれば車両または燃料での対応を検討
- ・エタノールとETBEが混合されて使用された場合の影響を検討（E0とE20混合時の影響も考慮）

## 【取組5. 法・規制改正】

- ・JISの改正手続き（原案作成委員会&化学・環境技術専門委員会）
- ・必要があれば関連する法規改正のための活動を実施（要精査）

# 燃料品質・車両規格

→ E20事前検討 → E10検討

→ E20検討

○ 標準燃料決定時期

★ 規格改正完了時期

取組	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年～
<b>1. 世界観の策定</b> ・ E20ガソリンの前提策定 ・ E10, E20対応車両の想定						
<b>2. 海外事例調査・先行事例の共有、活用</b> 燃料規格化の背景・経緯・根拠等の調査 ※現状の認証規格については自動車会社から情報提供						
<b>3. 標準燃料</b>	○ E10			○ E20		
<b>4. 車両&amp;燃料評価</b> ①揮発性等の影響確認	排ガスE10 エバポE10 材料影響E20 ※調査等で検討項目精査 運転性E10			排ガスE20 ※規格化手続きと並行して最終確認 エバポE20 ※規格化手続きと並行して最終確認 運転性E20 ※規格化手続きと並行して最終確認		
②混合影響	※ETBE22評価は検討結果を受けて要否確認					
<b>5. 法・規制改正</b>			JIS改正手続き ※各種法令対応が必要になる可能性有	品確法関係法令改正 JIS改正手続き	品確法/大防法/車両法等に基づく関係法令 ・ JIS改正手続き ※環境規制、国際調和対応が必要な場合 ※燃料評価を進める中で短縮を図る	
			★ E10	★ E20	★ E10	★ E20

# ■ 燃料調達（製油所/油槽所）

## 【取組 1. 海外事例調査】

- ・既にエタノール直接混合ガソリンを導入している海外事例の具体的調査(例：インフラ対応有無、品質管理方法、規格/規制や政府支援有無など)

## 【取組 2. 先行導入】

- ・エタノール直接混合ガソリン導入にかかる各種懸念/課題を整理し、それら課題解決に向けた先行導入地域を選定
- ・導入拡大時の規模感も初期検討  
※対応必要期間は製油所/油槽所の想定。エンジニアリングリソース不足等による工程遅延懸念は未考慮。

## 【取組 3. 導入拡大】

- ・取組2の先行導入結果も考慮し、導入拡大範囲とターゲット(ETBEとの併用含む) を再検証して順次導入拡大。設備はE20も見据えて対応

## 【取組 4. エタノール調達検討】

- ・国内調達可能性も含めたエタノール調達ソース検討

# ■ 燃料調達（製油所/油槽所）

取組	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年～
<b>1.海外事例調査</b>	→ 導入時の設備対応、 政府支援等					
<b>2.先行導入</b>	→ 先行導入地域選定	→ FS/FEED (実現性可能性調査/基本設計)	→ EPC(設計・調達・建設)		→ 先行導入(～2年間程度を想定)	
<b>3.導入拡大</b>	→ 導入拡大範囲(導入量 含む)の初期検討 (複数ケースを想定)					→ 導入拡大範囲再検証 ↓ 順次拡大 (2030年代前半～)
<b>4.エタノール調達検討</b>	→					

# ■ 供給インフラ（輸送/SS関連）

## 【前提：E10相当ガソリンの先行導入】

- ・ 2028年度下期目途にエタノール最大濃度10%相当の低炭素ガソリンを小規模・先行的に供給

## 【取組1．海外調査】

- ・ SS・ローリーの設備対応全般、SS内の品質管理、顧客への誤給油対策、SS・ローリー従業員への教育訓練等

## 【取組2．バイオガソリン取扱いに係るガイドラインの策定】

- ・ 海外の事例を参考にバイオガソリン取扱いに係るガイドラインを策定

## 【取組3．関係法令改正及びその対応】

- ・ バイオガソリン導入に係る関係法令（消防法、品確法、車両法等）の改正必要性を精査し、必要に応じて対応を検討

## 【取組4．SS設備対応】

- ・ 海外事例調査を踏まえ、対策を必要とする設備・部材を特定/検証/開発し、施設改修する
- ・ SSの実情を踏まえ、E10・E20対応が可能なSSの規模感・設備パターン等の検討と構築（含む改修コスト試算）

## 【取組5．タンクローリー設備対応】

- ・ 海外事例調査を踏まえ、対策を必要とする設備・部材を特定/検証/開発し、改修・製造する

## 【取組6．誤給油対策】

- ・ 海外事例等を参考に顧客への誤給油対策を整備し、従業員教育を実施する

## 【取組7．消費者広報】

- ・ 消費者理解を得るための適切な広報のあり方を検討・実施

# ■ 供給インフラ（輸送/SS関連）

取組	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年～
<u>E10、E20導入</u>					先行導入	拡大範囲の検討→供給開始
<u>1. 海外調査</u>	海外事例調査					
<u>2. ガイドライン策定</u>		ガイドライン1策定 (取扱編)	ガイドライン2策定 (設備編)			導入実績を踏まえた見直し
<u>3. 関係法令改正・ 対応</u>						導入実績を踏まえた法令改正
<u>4. SS設備対応</u>		部材・設備の検証/部材・設備の開発		設備改修		導入実績を踏まえた 増量に向けた追加対応
<u>5. ローリー対応</u>		部材・設備の検証/部材・設備の開発		改修・製造		導入実績を踏まえた 増量に向けた追加対応
<u>6. 誤給油対策 (含む従業員教育)</u>						導入実績を踏まえた見直し
<u>7. 消費者広報</u>						拡大方針を踏まえた対応

※ 足下の工期等を前提に、出荷基地から50Km圏内のSS50か所で先行導入を実施する場合を想定した。今後の先行導入地域選定に伴い精緻化していく。

※ SS改修等に係る人手不足等の影響や部材改良、法令対応等によりずれ込む可能性がある。

※ 先行導入の実績を踏まえ、拡大範囲を検討する。